「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所　〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18　FAX0282-22-3757
電話連絡先 0282-22-7079(増田)
Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp　ＨＰ：太平山麓九条の会で検索

１８０号
２０２２年　６月２４日発行

8月28日(日)　「夏想う　ピースピース」を開催します。ぜひお越しください！

幻燈「野ばら」

◆日時　8月28日(日)13時30分から15時30分まで
◆場所　キョクトウ　とちぎ蔵の街楽習館　１階大交流室
◆企画　・吉永小百合のCD朗読視聴
・幻燈会　　かわいそうな象　　野ばら
・オカリナの演奏(すみれ会)
・原爆パネル、宇都宮空襲の資料等の展示

終戦から77年。また、終戦の月が巡ってきます。8月は私たち日本人にとって、戦争や平和を考える重要な月です。8月はいろいろな角度での報道がなされてきました。今年はどんな切り口の報道になるのか、少し心配しています。ロシアのウクライナ侵攻を口実にした軍備費倍増の議論や、核保有を堂々と論じる政治家が出てくるなど、とても危険な状況になりつつあるからです。そんな中、原点に戻って、戦争や平和について考える集会を企画しました。懐かしい幻燈やオカリナの演奏もあります。お友達やご家族を誘ってお越しください。

高校生に投票を呼びかけて

市民ネット(安保法制を廃案にし立憲主義を取りもどすとちぎ市民ネットワーク　現在7団体と個人　)は昨年の衆議院選挙時、投票率をあげよう、高校生に選挙にいこうと呼びかけ、行動しました。

今年の参議院選挙はさらに憲法が危ない状況です。今年はテーマを「憲法」と「地球環境」の二つに絞り、駅頭で高校生に冊子とチラシを配布しました。冊子の表紙は「私の　あなたの命まもりたい」「憲法変える必要があるの？」と高校生が問いかけるもの。チラシは「地球温暖化は身近な生活を脅かしている」「CO2 を多量に出しているのは産業界」そして「選挙に行って政治を変えよう」と訴える内容でした。

6月1日、7日の朝の登校時に1時間、「他国を侵略しない　脅威を与えない　これが一番の自衛力」の大きな掲示板を掲げ6～7人で「憲法と地球環境のチラシです」と声をかけながら配りました。電車が着くたびにどっと集団で歩いてくる高校生の波、1日目は400人、2日目は300人が受け取ってくれました。受け取ってからベンチに座って読み合う 2 人、冊子の表紙を見て「憲法ですか、頑張ってください」と言ってくれる高校生、「ありがとう」とお礼を言われたり、うれしいですね。半面、目をそらしすり抜けて行ったり、軽く手をふってイラナイのジェスチャー、「大丈夫です」と断わる人の多いこと！！そんな時、私は「大丈夫って、大丈夫じゃないから配ってんのよ」とか「あなたの将来がかかってんだよ」と内心つぶやきながら顔はあくまでも爽やかににこやかに「話の分かるおばさん、おばあさん？」風にやっています。これからも、市民ネットは全員討議で様々な運動を続けていきます。ぜひ参加してください。

（玉田明子　記）

むのたけじの憲法九条

戦時中朝日新聞の従軍記者であった本名･武野武治は、中国･インドネシアなどでの戦況報道に携わった。軍の事実に反する発表をそのまま報道した苦い経験から戦争責任を強く痛感し、敗戦の8月15日に新聞社を退社した。その後、秋田県横手市で反骨のジャーナリストとして週刊『たいまつ』を発行し続け、2016 年 8 月に 101 歳で他界された。

残されたむのたけじの言葉にはたくさん共感を呼ぶものがある。ロシアによるウクライナ侵攻という非人道的な愚行をリアルタイムで目の当たりにしている私たちは、93 歳の時に語った言葉にしっかりと耳を傾けるべきだろう。憲法九条のことを言葉抄として取り上げます。

> 憲法九条とは何か。軍国日本に対する“死刑判決”です。軍備はもたせない。陸海空軍すべてだめ、交戦権も永久に放棄させる。あの乱暴な戦争をやった日本が、もう二度と国際社会で戦争はやれなくなった、ということにほかならない。・・・人類が生き続けていくためには、戦争を放棄した九条の道を選択する以外にないといえる。だから憲法九条を良いほうに考えると“人類の道しるべ”だということもできる。人類の輝かしい平和への道しるべであり、同時に日本自身の軍国主義への死刑判決でもある。
> （『戦争絶滅へ、人間復活へ』2008 年　岩波新書 1140）

近々ぞっとするような発言を政治家たちや防衛省が言い出した。曰く、中国･北朝鮮の脅威に対応するため有事を想定した集団的自衛権の行使、北朝鮮からのミサイルに打撃力をもつ、核共有するべき、反戦デモや報道はグレーゾーン事態、指揮統制機能を含む敵基地攻撃の保有を求める、官民一体で軍民両用可能な技術開発に取り組む、ウクライナ大統領の日本の国会での演説に対して「命をも顧みず祖国のために戦っている姿…その勇気に感動」、軍拡といえる防衛費の「相当な増額」「九条改正すべきだ」などなど。これらの発言にはもはや九条の顔が全く見えない。自国だけではなく、世界の人々･人類の生存と尊厳への思慮はほとんど窺えない。死刑判決を出され埋葬されたはずの軍国日本がゾンビのごとく蘇っていくようだ。 専守防衛を逸脱したらどんな惨禍が起こるのか、国民や他国民への想像力の欠如はあまりにも空恐ろしい。

平和とは人権の尊重と人間の尊厳を第一とする戦争放棄だと私は考える。それを実現するためには軍備放棄が必要。負の歴史への強い反省から導かれた輝かしい人類愛に満ちたものだ。この人類愛こそ政治を担う者たちが世界に広めるべき役割だと思う。核廃絶も同様だ。だから九条は人類の戦争放棄のための“道しるべ”なのだといえる。

九条を骨抜きにしてはならない。むのたけじの遺志に報いるためにも私たちは行動しなくてはならない。軍国日本への死刑判決、そして、人類の道しるべ。戦争絶滅、人間復活へ！！　　（元井　茂　記）

★スタンディング

7月9日(土)　市役所前　　7月19日(火)　とちぎコープ前

両日とも16時から30分間

★スタッフ会議

7月14日(木)　7月29日(金)　8月11日(祝)　8月25日(木)

場所　　キョクトウとちぎ楽習館2階市民活動室

時間　　13時30分から